

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	YCC もこもこ 長居教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0 (回答者数)	0
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	管理者や児童指導員の取得している資格が各々異なるため、様々な視点から学習支援を行うことができます。 オリジナリティある課題を作成して取り組んでいます。	様々な専門的な知識をもつスタッフが在籍できるような人員配置を行っています。教材を作成する中でも、各々で支援内容を考えつつ、より知識が得られるように毎日ミーティングを行いながら、様々な視点で話し合いを行っています。	保護者様のお迎えの際には、その日の活動がどんな様子であったかをしっかりお伝えできるように努めています。取り組んでいる課題が学習内容に関して、どのような意図・狙いなども伝えられるように、日々研鑽を行っています。
2	個別担当制のため、利用者様お一人お一人へ成長の流れに沿った支援ができます。また、勉強に限らず日常生活で活用できる学びやコミュニケーションなどSST支援も行うことができ、しっかりと伝える・復習する・ステップアップするなどのきめ細かい支援ができます。	個別担当制のため、お子様の得意・苦手を把握して寄り添える支援を行っています。また、話したい気持ちの時には話す時間を設けるなど、その時の気持ちにも寄り添いながら支援を行っています。	日常生活で活用できる学びのサポートができるように、関わり方のロールプレイを行うなど、実践に近くなるような活動も取り入れていきたいと考えています。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の放課後等デイサービスの事業所様や福祉施設との連携をさせていただくタイミングが少ないです。	様々な事業所様に通われているお子様が多いなか、事業所同士の繋がりや福祉施設の連携での関わりがなかなかできていないことが現状です。そのため、お子様が他の事業所様でどのような様子で過ごされているかの違いを捉えづらいなと感じています。	相談支援事業所様とは、支援計画書の更新に併せて共有と連絡をさせていただきたいと考えています。 他事業所様とは、市区町村での催し物などがあれば、積極的に参加をして繋がりを築いていきたいと考えています。
2	送迎がないため、通園先のリアルタイムの子どもの様子を掴むことが難しいです。	お迎えに行くなどのサポートを行っていないことから、お子様の園でのご様子などは、送迎してくださっている保護者様よりお聞きしている状況です。	送迎業務の導入は現段階では見通しがないため、送迎いただいている保護者様には活動の振り返りの際に引き続きお話をお伺いしていきたいと考えています。また、面談やご連絡を行いながら、事業所での様子も含めて共有をしていきたいと考えています。
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年4月21日				
YCC もこもこ 長居教室						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		広いスペースを確保して、利用者が落ち着いて活動ができる距離感になるように、空間を整えています。	玄関スペースが少し狭いため、お迎えの際にはなるべく玄関で密集にならないように、お声かけさせていただいています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		教室自体はバリアフリー化に努めており、掲示物を貼る際にも、年齢に限らず確認ができるようにルビ打ちなどを行っています。	建物自体が2階で階段しかないため、建物の構造としてのバリアフリーは難しい部分ですが、手すりを設置させていただいています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎月1回以上のミーティングを行い、しっかりPDCAに取り組んでいます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年、保護者様には評価表をお配りして、事業所へのご意見をいただいています。その際のご意見もしっかり反映しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		管理者と職員、職員同士でも話がしやすい雰囲気になるように意識をしています。年2回面談もっており、聞き取りもしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部評価は設けておらず、保護者様向けの評価を基に業務維持・改善に努めています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月2回以上、事業所の勉強会・提携医療機関の医師による勉強会・提携大学の先生による研修会によって研鑽できる機会を設けています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		半年に1度の計画書の更新の際に、しっかり検討を行い、保護者様との交付を行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		支援計画書を作成するなかで、保護者様へ質問紙をお配りして、お子様の様子をお聞きさせていただいています。	ニーズに沿う支援ができるよう、質問紙を基にお電話等で追加のお話を聞かせていただき、より良い支援ができるように努めたいと考えています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別担当制のため、担当職員を中心に他職員にもお子様の様子を共有しながら、会議を行い、計画書を整えています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		会議を経た書類は、スタッフルームにて掲示を行い、職員全員が把握できるように共有しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		活動中の様子が確認できるように記録の作成を行っています。職員間で共有できるシートにて日々のアセスメントも記しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画書には、昨年度より5領域を追記し、お子様それぞれのニーズに合わせた支援ができるような内容を書かせていただいています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動前にミーティングを行い、職員全員でどのようなワークを行うか、提案・共有を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		集団で行う内容は2カ月3カ月は同じ内容にならないように、一覧表を設けて確認しながら設定しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別学習・集団活動での目標を設定して、支援に取り組んでいます。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	気づいたことや嬉しかったことなど、個々の職員から話上がり、全員で話に花が咲くことが多々あります。	支援後に打合せの時間を設けることが難しいですが、次週の事前打合せにて、しっかり共有することを努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者および担当職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		送迎がないため学校との関りは希薄ですが、保護者様へ随時お聞きして把握しておくように努めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		保護者様からの情報を基に把握させていただいております。共有を要する場合には、しっかり連携を行っています。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		○		交流の機会はなかなかありません。
	31	(31は、事業所のみ回答)		○		児童発達支援センターとの連携は図れていません。助言や研修の機会は随時設けています。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		交流の機会はなかなかありません。
保護者への	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎いただいている保護者様へは随時お伝えさせていただいています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		事業所で茶話会を行い、保護者様が参加できる機会を作っています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		初回面接時や計画書の更新時期に、保護者様・お子様へニーズをお聞きしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		契約時に行っています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時、面談を実施しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会を通して、交流の機会を設けています。	

説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		お話をいただいた際には、早急に対応をしています。経過や状況なども随時お伝えするように努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		イベント開催時には紙面での報告や、HPのブログ・SNSにて発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報にあたる書類は、施錠ができるロッカーで保管しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		気をつけながら、対応させていただいています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		以前、1度だけ取り組みました。また会社全体で取り組んでいきたいと考えています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約の際にご説明しています。 また、年2回の防災学習にて訓練・周知を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		同上。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回面接時に、服薬などをお聞きして、対処方法もご確認させていただいています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	初回面接時に、保護者様からお聞きしています。	食事提供がないため、医師の指示書のご提示はありませんが、お子様への飲み物・おやつ提供は配慮しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		教室全体での勉強会にて安全計画周知を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の対応などは、契約時や防災学習の際に周知を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		少しでもヒヤリとしたことは報告書を作成し、事業所のスタッフルームへ掲示をして、職員全員が確認するように取り組んでいます。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全体研修にて研鑽の機会を設けています。 当日の参加が難しい職員へも動画にて確認するよう周知しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束にかかる同意書にて、保護者への確認と同意を行っています。	